

# 生徒会役員選挙立会演説会・公開質問会



十一月二十六日(木)令和三年の一年間の生徒会を担う、役員選挙の立会演説会が行われました。生徒会長1、副会長1、書記1、会計1の役員数4で、選挙にはなりませんでしたが、4名の候補者及びそれぞれへの応援弁士による立会演説が行われました。各候補者からは当選したらどんな学校にしたいと考えているかについて、堂々と述べられました。また、今年度新たな取り組みとして、候補者が思い描く生徒会像を引き出すため、公開質問会が行われました。当日だけでは惜しい企画であり、後日、生徒会会報の紙上でも、続きの質問会が行われ、「生徒会総会を活性化するための方法をお聞かせ下さい。」「いじめと聞かせるようなものではないか。」「話し合い以外の対策を考えたい。」「外など、自分たちのリーダーの考えを、全校生徒の厳しい目と耳で確かめるかのような質問が出され、その一つ一つに候補者たちはしっかりと答えていました。



十一月二十六日(木)向沼支部生徒造形作品秀作審査会が行われ、本校から9作品が出品されました。三島中生徒の作品はどれもレベルが高く、特に立体作品は他校を圧倒し、7作品で支部代表に選ばれました。代表作品は翌日行われた県の審査会でも特選を受賞しました。

## 今月の1枚

### 最後の書道教室

小学生の時から毎年、山垣先生にご指導いただいた書道教室も、3年生にとっては今年が最後となります。これまでの教えを胸に、心を込めて書く姿が印象的でした。

12月10日(木)



# 総合的に考え判断する力



【教育目標】

心豊かな生徒  
自ら学ぶ生徒  
たくましい生徒

# 桐の里だより

令和2年12月号  
三島町立三島中学校  
校長 関根宏房  
ホームページURL  
<https://mishima.fcs.ed.jp/>三島中学校



ホームページ掲載したバックアップもご覧いただけます。  
三島中学校ホームページよりお返事をさせていただきます。

**立場にわかれて議論**  
二期期に入り、学校では各教科の授業研究が行われております。この日は、2年生の社会科、歴史分野の授業で、明治維新の単元でした。明治維新は、日本が近代国家への道に踏み出した地点であり、百五十年が経過した今でも、当時の明治政府が選んだ近代化路線の是非については、議論されることです。大久保利通、西郷隆盛、板垣退助と聞き覚えのある人物が登場するこの時期ですが、当時の明治政府がどの道に進むべきかを判断するのに際し、出されていた3つの主張を投げかけ、令和の時代を生きる子どもたちが、どう判断するのか、論じ合わせることもあります。6名の子どもたちは、2名ずつの3ペアに分かれ「国内近代化」

「征韓論」「自由民権」の3つの立場で互いの意見をぶつけ合います。国内近代化は「近代化を急げない」と他国のように日本も植民地化されてしまう。「欧米に早く追いつくためには、この方法しかない。」と、列強がアジアに向けた視線に對し、時間的な余裕のない状況を主張します。征韓論は、「土族を中心に軍を進めるべきだ。」「植民地の資源などが、軍事力の強化につながる。」と、幕府崩壊後の国内事情を見据えた対策を主張します。自由民権派は、「自由・平等な近代国家をつくるべきだ。」「もし戦争に負けたらどうする。」「近代化路線は犠牲が大きすぎる。」と反論します。それぞれ立場で、それぞれが根拠をもって論じ合います。当時の明治政府でも同じような議論がなされてい

たのだと思います。ただ、当時の国内外からの圧に對する切羽詰まった状況は、令和の世の中に生きている子どもたちの背景とは違いがありすぎて、そのまま再現とまでには至りません。一通り議論した後、授業者から子どもたちに投げかけた質問は「討論を超えて、実際に自分だったらどうの立場を選ぶのか。」というものでした。勿論、自分たちが主張してきた立場を選ぶものと期待していましたが、彼らを選んだのは、3つのペアともに「自由民権」でした。当時の明治政府を選んだのは「国内近代化」であり、これによりアジアでいち早く近代化を成し遂げた日本は、富国強兵を進め、やがて植民地獲得競争と戦争への道を辿ることになります。子どもたちが、立場を離れ、冷静にそして総合的に判断した結果は、史実とは違うものでした。このような、時間を超えて過去に立ち返り、人々の判断について吟味することは、未来を考える上でも大変価値のあることと考えます。